

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第30週〔7月25日～7月31日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>
 E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

病原体検出状況

高知県では本年3月頃から、手足口病、ヘルパンギーナ、ウイルス性発疹症と診断された患者からヒトパレコウイルスが分離されています。本来の原因ウイルスがエンテロウイルスなど別のウイルスであることから、二度当該疾患と診断されても再度類似の症状を呈することがあるので注意が必要です。

県内情報

○ 患者情報総評

警報発令疾患：手足口病

注意報発令疾患：ヘルパンギーナ

- ・ 晴れの日が多く気温も上昇し、夏本番を迎えている。
- ・ **手足口病**（幡多：警報→警報，高知市：注意報→警報，中央西：注意報→警報，高幡：警報→警報，中央東：注意報→注意報，安芸：注意報→注意報）は高幡を除く地域で増加または横ばいとなり、総数は再び増加した。
- ・ **ヘルパンギーナ**（幡多：警報→警報，中央西：注意報→警報，安芸：注意報→注意報）は高幡を除く地域で増加し、総数は前週の約2倍に増加し再び注意報値を超した。
- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**（中央東：注意報，高幡：注意報）は中央東と幡多で増加したため、総数はやや増加し、過去10年の同時期としては最も多い報告数となった。例年7～9月は低いレベルで推移しており、今後の動向が注目される。
- ・ **咽頭結膜熱**（高幡：警報→注意報）は夏型疾患であるが、依然低いレベルで推移している。

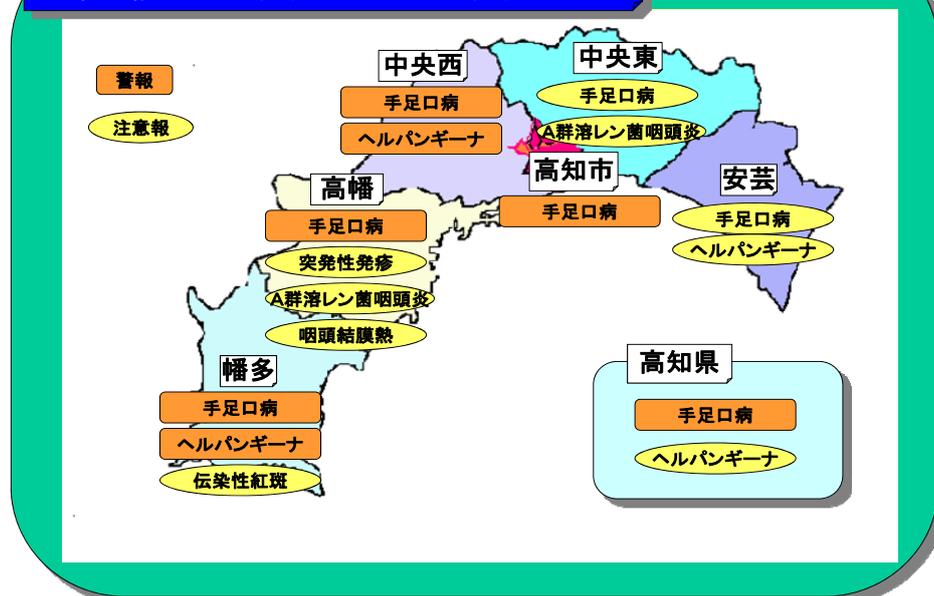
上位疾患構成図

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



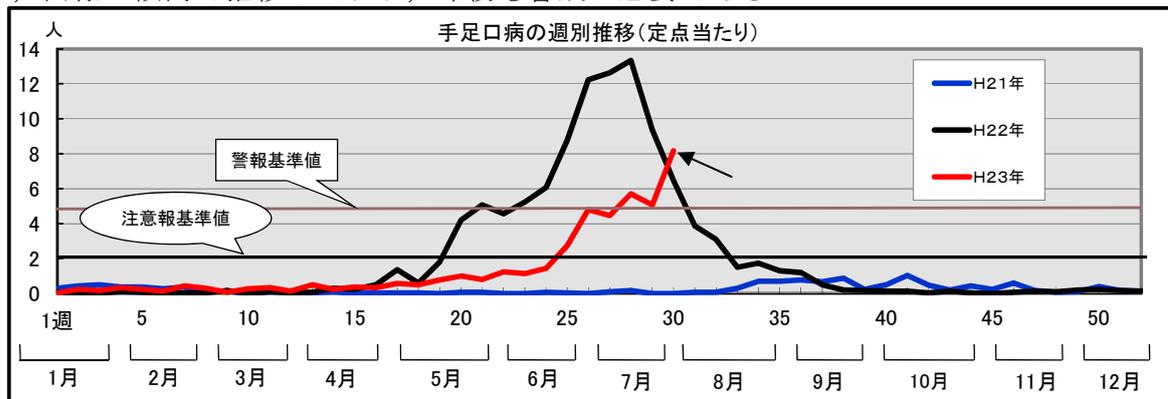
地域別感染症注意報・警報発生状況

第30報（2011年7月25日～2011年7月31日）



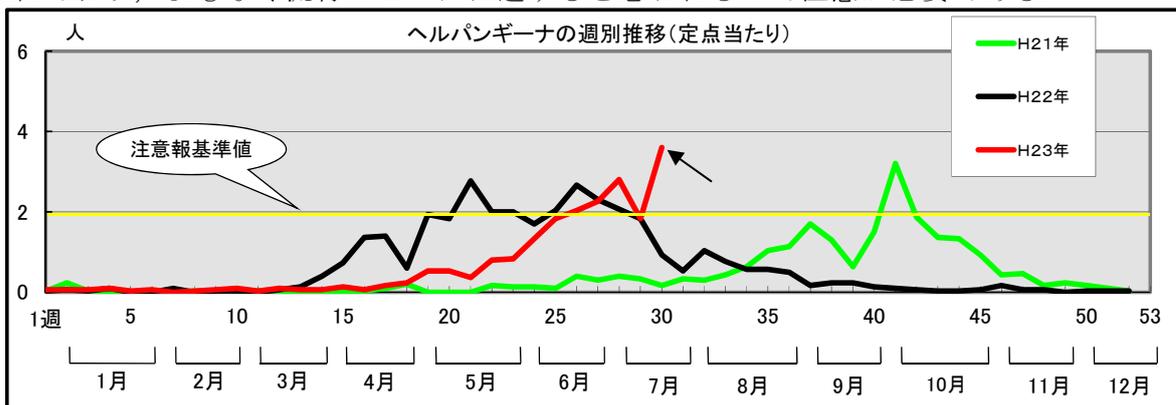
手足口病：今週 8.17 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

第26週以降増減を繰り返しており、流行のピークに近づいていると思われたが、今週は再び大幅に増加した。特に幡多からの報告が多く定点当たり23.40で、警報値の5.00を大きく超している。年齢別では1～2歳からの報告が6割を占めている。大流行した昨年より立ち上がりの時期は遅いが、同様の傾向で推移しており、今後も警戒が必要である。



ヘルパンギーナ：今週 3.60 (注意報値：2.00 警報値：4.00)

前週減少に転じたが、今週は再び増加した。手足口病同様に、幡多で大きな流行がみられている(定点当たり13.40)。夏型疾患であるが、年によって流行のピークは6～10月にみられており、予測が難しいが、立ち上がりが同時期(5月中旬)であった平成18,19年のピークは第29,31週にみられており、まもなく流行のピークに達すると思われるので注意が必要である。



検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
28	アデノウイルス	2歳 男	高幡	Adenovirus 1
25	腸炎	4歳 男	高幡	Adenovirus 6
26	手足口病	1歳 男	高知市	Parechovirus NT
26	手足口病	1歳 男	高幡	Parechovirus NT

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 6例(80代男:2例, 40代女)《高知市》(80代男)《幡多》(70代男)《須崎》(80代女)《中央東》(今年99例)

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1例(20代女)《高知市》(今年1例)

4類感染症：日本紅斑熱 1例(77歳女)《中央西》(今年2例)

○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 2例(0,4歳女)
 《渭南病院小児科》：アデノウイルス咽頭炎 1例(1歳女)

高幡：

《もりはた小児科》：マイコプラズマ肺炎 1例(4歳女) 手足口病の流行が続く
 《大西病院小児科》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の2例は28, 46歳男

中央西：

《石黒小児科》：带状疱疹 1例(4歳男)

《日高クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（1歳男）

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 3例（1,2歳男, 2歳女）
ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳男）

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（10歳男）
アデノウイルス咽頭炎 2例（1,3歳男）

《野市中央病院小児科》：带状疱疹 1例（12歳女）

《早明浦病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（2歳男）は病原性大腸菌*E. coli* 0-121

全国情報第28週（7/11～7/17）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核334例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症80例（有症者66例、うちHUSなし）、パラチフス1例

4類感染症：オウム病1例、つつが虫病1例、デング熱2例、日本紅斑熱2例、日本脳炎1例、マラリア1例、レジオネラ症20例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、後天性免疫不全症候群21例（AIDS 4例、無症候16例、その他1例）、ジアルジア症1例、梅毒8例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん6例、麻しん7例

報告遅れ：日本紅斑熱3例、クリプトスポリジウム症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例

◆手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。基本的には数日間の内に治癒する予後良好の疾患であるとされている。しかし稀ではあるが、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を呈することが以前より知られている。

病原ウイルスは主にコクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス71（EV71）であり、その他CA6、CA9やCA10などのエンテロウイルスによっても発症する。手足口病の感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児の集団生活施設における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となる。手足口病の病原ウイルスに感染しても全員が典型的な症状を呈するものではなく、不顕性感染例も存在することから、発症して診断された者を隔離しても効果的な対策とはならないと考えるべきである。また、主要症状が回復した後も比較的長期間にわたって尿の便などからウイルスが排泄されることがあるが、基本的には軽症疾患であることを踏まえ、回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではない。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて手足口病をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。手足口病の報告数は2011年第19週以降増加が続いており、第28週の定点当たり報告数は11.0（報告数34,216）となり、1982年に同調査が開始されて以来最多の報告数となった前週（定点当たり報告数9.7）よりも更に大きく増加した。都道府県別では佐賀県（39.7）、福岡県（37.2）、熊本県（30.3）、兵庫県（26.2）、愛媛県（24.9）、山口県（24.7）、大分県（22.0）、滋賀県（20.3）、長崎県（18.5）、福井県（16.0）の順となっている。これまで流行が大きかった中国、四国、九州地方では、報告数の減少しているところが多いが、近畿地方より東側では福井県を除く全ての都道府県で増加が見られており、流行は全国的なものとなってきている。2011年第1～28週の定点当たり累積報告数は41.7（累積報告数130,766）であり、年齢群別では0～1歳の報告割合が37.6%、2～3歳が35.6%と3歳までで全報告数の70%以上を占めている。

手足口病の原因ウイルスは、CA16とEV71が代表的であるが、2011年は現時点（2011年7月21日現在）での総検出報告数263件中、CA6が145件（55.1%）と患者から検出されたウイルスの半数以上を占めている。

臨床現場からの報告では、本年国内で流行している手足口病の臨床的特徴として、発症初期に高熱を発することが少なくなく、また昨年までみられていた典型的な発症例と比べて発疹が大きく、四肢末端に限局せずには広範囲に認められる症例が目立つとの情報が寄せられている。また、ヨーロッパでは最近、CA6の感染によって手足口病を発症し、治癒してから数週間経過した後に、爪甲が爪床から浮き上がって剥離・脱落する症例（爪甲脱落症）の多発が、小児及び成人で報告されている。一方、本年のわが国の手足口病発症例においても、爪甲脱落症が疑われる例が報告されてきており、今後手足口病の流行が終息した後も本症例について留意する必要がある。

過去の発生動向調査の推移を参照すると、現在手足口病の発生はそのピークを迎えつつあるものと推察されるが、これまでの最多報告数を更新しており、その発生動向には今後も注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(29週)	高知県(30週末累計) H23/1/3~H23/7/31	
			中央東	高知市	中央西							
内科・小児科	インフルエンザ									136 (0.03)	12,335 (256.98)	
小児科	咽頭結膜熱					4	1	5 (0.17)	8 (0.27)	2,289 (0.73)	192 (6.40)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		25	3	4	4	4	40 (1.33)	32 (1.07)	2,712 (0.87)	1,630 (54.33)	
	感染性胃腸炎	6	6	25	6			1	44 (1.47)	43 (1.43)	8,302 (2.65)	6,165 (205.50)
	水痘		2	7	3	1	2	15 (0.50)	15 (0.50)	2,869 (0.92)	1,300 (43.33)	
	手足口病	5	26	72	15	10	117	245 (8.17)	152 (5.07)	27,880 (8.89)	1,274 (42.47)	
	伝染性紅斑		4	4				5	13 (0.43)	13 (0.43)	1,422 (0.45)	266 (8.87)
	突発性発疹		4	4	1	5	1	15 (0.50)	15 (0.50)	1,915 (0.61)	433 (14.43)	
	百日咳									88 (0.03)	11 (0.37)	
	ヘルパンギーナ	6	4	16	14	1	67	108 (3.60)	55 (1.83)	12,644 (4.03)	607 (20.23)	
	流行性耳下腺炎			1			1	4	6 (0.20)	7 (0.23)	2,898 (0.92)	231 (7.70)
	RSウイルス感染症									510 (0.16)	557 (18.57)	
眼科	急性出血性結膜炎									337 (0.50)	(0.00)	
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	2 (0.67)	478 (0.70)	31 (10.33)	
基幹	細菌性髄膜炎									8 (0.02)	2 (0.29)	
	無菌性髄膜炎									21 (0.05)	13 (1.86)	
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.14)	1 (0.14)	262 (0.57)	59 (8.43)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 (0.14)		5 (0.01)	7 (1.00)	
計 (小児科定点当たり人数)	17 (8.50)	71 (10.14)	135 (12.00)	43 (14.33)	26 (13.00)	202 (40.40)		494 (16.37)				
前週 (小児科定点当たり人数)	25 (12.50)	43 (6.14)	118 (10.45)	34 (11.33)	35 (17.50)	88 (17.60)		343 (11.33)	64,776	25,113 (679.18)		

定点当たり

第30週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(29週)	
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									0.03	
小児科	咽頭結膜熱					2.00	0.20	0.17	0.27	0.73	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.57	0.27	1.33	2.00	0.80	1.33	1.07	0.87	
	感染性胃腸炎	3.00	0.86	2.27	2.00		0.20	1.47	1.43	2.65	
	水痘		0.29	0.64	1.00	0.50	0.40	0.50	0.50	0.92	
	手足口病	2.50	3.71	6.55	5.00	5.00	23.40	8.17	5.07	8.89	
	伝染性紅斑		0.57	0.36			1.00	0.43	0.43	0.45	
	突発性発疹		0.57	0.36	0.33	2.50	0.20	0.50	0.50	0.61	
	百日咳									0.03	
	ヘルパンギーナ	3.00	0.57	1.45	4.67	0.50	13.40	3.60	1.83	4.03	
	流行性耳下腺炎			0.09			0.50	0.80	0.20	0.23	0.92
	RSウイルス感染症									0.16	
眼科	急性出血性結膜炎									0.50	
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.67	0.70	
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	
	無菌性髄膜炎									0.05	
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14	0.14		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14		0.01	
計 (小児科定点当たり人数)	8.50	10.14	12.00	14.33	13.00	40.40	16.37				
前週 (小児科定点当たり人数)	12.50	6.14	10.45	11.33	17.50	17.60		11.33			

2011年週報推移(定点当たり)

